

<集会のご案内>

インドネシアの「慰安婦」問題にみる反自由主義史観

■報告/川田文子(作家・「インドネシアの『慰安婦』」著者)

■日時: 8月21日(木) 午後6時半から

■会場: 九段社会教育会館 3F 学習室(部屋の表示は「AVN」です)
(地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」下車6番出口前)

■内容: ①インドネシアの「慰安婦」のビデオ上映
②講演「インドネシアの『慰安婦』問題にみる反自由主義史観」/川田文子さん
③質疑/討論

2万人を超える日本軍による性奴隷・暴力の被害者が名乗り出ているインドネシア。藤岡信勝・小林よしのり氏らの自由主義史観のキャンペーンのターゲットにもされているインドネシアの「慰安婦」問題を川田さんと一緒に考えます。ふるってご参加下さい。

■参加費: 500円

■主催: 戦後補償実現! インターナショナル・サマー・キャンペーン'97 (ISC'97)

■協賛: 戦後補償実現市民基金・AVN (アジア・ボランティア・ネットワーク)

◇連絡先: ☎03(3262)4971 FAX03(3237)0287 〒102千代田区飯田橋4-5-16-301

<公開討論会のご案内>

対論:「慰安婦」問題の解決とは何か?

— 挺対協と「国民基金」 —

発言: 池銀姫 (チ・ウニ、韓国挺身隊問題対策協議会理事、韓国女性団体連合代表)

朴元淳 (パク・ウォンスン、韓国挺身隊問題対策協議会顧問弁護士、元「市民連帯」
常任執行委員)

VS

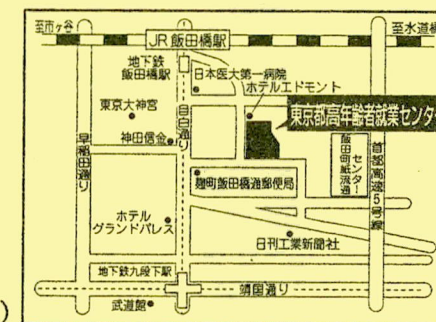
和田春樹 (東京大学教授、「女性のためのアジア平和国民基金」呼びかけ人)

高崎宗司 (津田塾大学教授、「女性のためのアジア平和国民基金」運営審議会委員)

(※敬称略)

日時: 8月7日(木) 午後6時半 (開場6時)

会場: シニア・ワーク東京 (飯田橋駅下車7分、エドモ
ンド・ホテル隣、千代田区飯田橋3-10-3、☎5211-2307)



韓国の元「慰安婦」への「償い」、「支援」をめぐって、女性の人権、とりわけ性暴力被害者の名誉と尊厳を回復するとはどういうことか? 日本政府、「国民基金」、挺対協の立場、韓国・日本社会の対応などについて、4人の論者に日頃考えていること・感じていることを縦横に論じ、意見を交換していただきます。(通訳付)

参加費: 1000円

主催: ISC'97 (戦後補償実現! International Summer Campaign '97)

共催: 戦後補償ネットワーク

連絡先: 03(3262)4971 Fax03(3237)0287 〒102 千代田区飯田橋4-5-16-301

インドネシアの「慰安婦」

川田文子
四六判/上製/192頁
●1800円
ISBN4-7503-0927-3

今までほとんど把握されていなかったインドネシアにおける日本軍の性暴力の実態。「慰安婦」徴集の手口や、慰安所での生活、軍がどのように関与したかなど、資料と証言をもとに具体的にレポートする。

■関連書 戦争と性/川田文子 1825円
(内容構成)

第一章 ジャワからボルネオへ
名乗りをあげた性暴力被害者たち/日本人市長が「慰安婦」を徴集/慰安所での生活/身体を蝕まれ

る「慰安婦」たち/スハルティさんの体験 ほか
第二章 日本軍政下のスクラピで起こったこと
小さな体育館に集まった24人の被害者/過去の記憶に苦しむ母の姿/「ピンジャマ女(女を貸せ)」——ウミクスンさんの場合 ほか
第三章 バンドン チマヒのゲバン・クラブの慰安所
エミィさんとの再会/慰安所になったオランダ軍将校用住宅/「慰安婦」徴集の手口 ほか
第四章 チンタと呼ばれた将校用「慰安所」とその息子たち
三枚の写真——シティネンイジョさんの場合/拉致されて現地妻に、そして慰安所へ ほか
終章 インドネシアの慰安所
旧日本軍人の証言/「慰安婦」は「公娼」か?/強制連行された「慰安婦」たち ほか
資料 インドネシア・元兵補コミュニケーション・フォーラム/元「従軍慰安婦」被害者調査

明石書店

〒113 東京都文京区湯島2-14-11
TEL.03-5818-1171 FAX.03-5818-1174
振替00100-7-24505

「慰安婦」被害者の

生きているうちに補償を！『意見広告』にご賛同を！



国際的な世論の力で日本政府を動かそう！

21世紀が目前に迫っていますが、日本政府はいまだ「慰安婦」とされた被害者に対して戦争責任をとらないまま放置しています。一昨年発足した「女性のためのアジア平和国民基金」は大多数の被害者から拒否されたにもかかわらず、強硬な手段をもって受け取り作業を押し進め、被害者のあいだに不信と混乱を広げています。加害国日本ではすでに関心が薄れていますが、「このままでは死ねない」と韓国、台湾、フィリピン、インドネシア、そして「在日」の被害者たちは病苦や貧困にもめげずに日本政府にねばり強い活動を繰り広げています。

戦後52年のこの夏、各国の被害者・支援団体とともに「戦後補償実現！国際的・サマー・キャンペーン97」(ISC'97)活動が実施されます。その活動の一環として、内外の世論を大きく喚起し日本政府に圧力をかけるために、日本、米国、ヨーロッパの主要紙への『意見広告』の掲載を企画しました(詳細は右記参照)。

被害者の訃報が相次ぐなか、時間は本当になくなりました。短い期間ではありますが、「このまま終わらせてはいけない」と思う私たちの気持ちのなかに補償を実現する力があると信じます。いま一度、被害者とともに戦後補償実現のために声をあげてください。

『意見広告』にぜひご賛同を！ ご協力よろしくお願いします。

1997年7月25日

ISC'97『意見広告』チーム
三浦春子、鈴木弘子、木野村照美、朱秀子、金英姫

各国で掲載予定

掲載を予定しているのは「慰安婦」政策関係者の入国禁止措置を二度にわたり実施し、最近「日本は戦争責任をとるべき」との決議案を下院に提出した米国、N.Yタイムズ(予算約450万円)。台湾、フィリピンなどの新聞、また国内5紙(朝日、読売、毎日、日経、産経新聞—予算約1千万円)と各宗教団体や組合の新聞・雑誌。さらに、戦後補償を実施してきたドイツやスイス、オーストリアなどのヨーロッパ各国の新聞への意見広告掲載です。

賛同カンパ1口個人2千円、団体1万円、何口でもOKです。

連絡先: 〒102千代田区飯田橋4-5-16-301

電話: 03-3262-4971、FAX: 03-3237-0287

カンパ・賛同金送金先:

郵便振替00100-7-722239「戦後補償実現市民基金」

(通信欄に「意見広告」と明記下さい。他のカンパと区別します。)

広告文案づくり・カンパ集めなどボランティア募集！！

申込書

意見広告に賛同される方はこの申込書にご記入の上、事務局までFAXまたは郵便でご返送下さい。

名前・団体名	賛同		ご意見・メッセージ
	☐	☐	
連絡先	〒		
	電話	FAX	